『あたらしい皮膚科学：第 3 版』のトップページへ

鼠径リンパ節腫脹を認める（有痛性横痃）.

検査所見・診断

臨床症状から診断を下すことが多い．伊東反応（軟性下疳菌ワクチンを用いた皮内反応）が従来用いられていた．梅毒の硬性下疳とは，①疼痛は通常ない，②病変に硬結を伴う，③リンパ節腫脹が無痛性という点で本症と鑑別する．

治療

アジスロマイシン，セフトリアキソン，エリスロマイシンなどが第一選択となる．

3. 性病性リンパ肉芽腫
lymphogranuloma venereum

同義語：鼠径リンパ肉芽腫症（lymphogranulomatosis inguinale）

Essence

- **クラミジア感染症．日本ではまれ．**
- **多くは性行為で感染し，感染後 1 ～ 2 週間で外陰に小丘疹や小水疱．さらに 1 ～ 2 週間で発熱し，鼠径部，大腿部のリンパ節が腫脹．**
- **熱帯に多い．**

病因・症状

クラミジアの一種（*Chlamydia trachomatis*，L1 ～ L3 型）による．感染後 10 日ほどで，外陰や肛門部に直径 1 mm 大の単純疱疹に類似した小丘疹が単発する．自覚症状を欠くため，気づかないうちに自然消退する（第 1 期）．その後約 1 ～ 4 週間で，発熱や肝脾腫などの全身症状とともに所属リンパ節が硬く腫脹する．疼痛を伴い，自潰排膿をするようになる．男性では主に鼠径リンパ節が，女性では肛門直腸リンパ節が侵されやすい（第 2 期）．第 3 期（発症後数年以降）になると外陰部リンパ浮腫や象皮症様変化，尿道および直腸狭窄をきたすことがあり，この現象をエスチオメーヌ（esthiomène）と呼ぶ．

検査所見・診断・治療

膿からの培養検査，血清からの抗体検出や，病変部からの抗原検査法，PCR 法などを行う．患者リンパ節穿刺液を用いた皮内反応検査〔フライ反応（Frei reaction）〕は現在行われていない．治療にはテトラサイクリン系やマクロライド系抗菌薬の内服を行う．

表 27.1　STS と TPHA：結果の解釈とその対策